

仕事が楽しい人 F i l e . 1 : 佐藤輝幸さん

◆佐藤さんの仕事の出会いから今まで

佐藤さんは、大学4年の時に、卒業後の社会人人生では、時間の大半を仕事に費やすのだから好きな仕事をしたいと考えた。好きな仕事って何だろうと自分自答すると、それは、自分の手で何かを作ることという答えがすぐに導き出された。自分の手で作るモノって種々雑多、たくさんある中で、佐藤さんはインターネット関連の仕事を行きついた。そして、アルバイトで、今の会社（現在の株式会社）に入社した。

佐藤さんが必死に仕事をすると、作った作品（WEBサイト）が好評を得た。実績も出た。そして、社員になり、数々の仕事を精力的に取り組んだ。気がつくと、マネージャーになっていた。マネージャーになった佐藤さんは、壁に突き当たった。それは、「好きなことをしているという感覚で仕事をしては、IT業界では通用しない」という壁。

IT業界は、秒進分歩と言われるほど、技術が高速に革新されている。これまで培ってきたITの技術が、一瞬にして時代遅れになる。これまで先頭を走っていたはずが、ふっと気がつくと、何歳も年下の後輩に抜きさされる厳しい業界。

マネージャーになった佐藤さんは、自分だけではなく、チームメンバーともども、この高速な技術革新についていかなければならない。自分のペースで走っているのは、チームメンバーも含めて自分たちは、あっという間に取り残されてしまう。自分が技術革新についていくだけでも大変なのに、チームメンバーにも同様に技術を磨いてもらい、チームを引っ張ることに苦労した。「自分はできるのに、何で、チームメンバーはできないんだろう」と、悩み、自分の力のなさを思い知らされた。そして、「好きなことをしているという感覚では、通用しない」と気がついた。革新されるIT技術を先んずる能力、チームメンバーを統制するマネジメントスキルを、自分のペースではなく、環境が変化するスピードに合わせて開発する。こんなスピード感覚に、佐藤さんは脱皮した。

2005年に代表取締役役に就任し、今日に至る。

◆佐藤さんが大切にしているキーワード

【2%を楽しむ】

仕事の大半は、決して楽しいことではない。

仕事の98%は単調で、面白くないことだけど、2%の瞬間に楽しみを感じられるかどうか、次の進歩に影響する。佐藤さんが感じる2%の楽しみの瞬間は、ホームページが出来上がった時。依頼された企業が、ホームページを通じて世界とつながったと実感した時。

この楽しみを得るために、98%の努力を積み重ねている。

【恩返しの経営】

好きなことを仕事にしたいと思い見つけたIT関連の仕事で成果が出せたのは、IT業界の市場が伸びていたから。(株)かっぺが設立10周年を迎えられたのは、我々を応援してくれる、たくさんの人たちの支えがあったから。決して、自分たちが優れていたからではない。佐藤さんは、多くの人たちから頂戴した恩に報いる。このことを肝に銘じて事業に従事している。

◆佐藤さんからのメッセージ

自分自身が10歳のころの自分に恥じない、カッコいい大人になっていますか。

◆佐藤さんのパワーフード

トムヤムクンスープ・コーラ (0KCAL)

◆平堀が感じ取った佐藤さんの凄さ

恩返しの経営の話聞いた時、震えました。

(株)かっぺは、設立してから、色んな事があったのですが、今年で10周年を迎え、一定の成功を収めています。普通の若手経営者なら、成功は、自分の発想力、努力の結果に寄って得られたと考えます。しかし、佐藤さんは、「多くの人たちからの支援があったから今がある」と、気持ちを込めて私に話してくれました。佐藤さんは、まだ、若干32歳です。私が32歳のころは、“俺が俺が”という意識で、このような発想はありませんでした。恩返しをベースとして千葉大学にも仕事をした結果、千葉大学の企業論の非常勤講師の依頼もいただいたと、佐藤さんは、嬉しそうにしていました。

また、(株)かっぺに入社してきた社員には、“自立”を目標にして、厳しく指導しているそうです。毎朝、その日に取り組む業務の計画を報告させ、時間管理能力を身につけさせたり、業務負荷の大きい大変な仕事を、あえて任せたりするそうです。人の2倍、3倍、いや、4倍の努力をせよと、社員を鼓舞しているそうです。佐藤さんが人材の育成目標としている“自立”とは、自分で生きていく力を身につけることなのでしょう。そのために、ビジネススキルを磨かせる。スキルを磨くには、反復訓練が必要です。楽をしていては、スキルは向上しません。そんな信念に裏付けされた佐藤さんの厳しさに、好感を持ちました。佐藤さんのチームに所属したメンバーは、幸せだなと思いました。

◆佐藤さんのプロフィール

職業：WEBプロデューサー

所属：株式会社かっぺ

URL：<http://www.kappe.co.jp/>

◆WEBプロデューサーってどんな仕事？

WEBが世の中に普及する以前の時代を思い出すと、人と会うには、学校とか会社とか交流会とか、物理的な場所の共有が必要だったが、WEBが普及した今は、その人個人の情報をWEBに掲載すれば、世界中の人たちと出会えるチャンスが広がった。ホームページやブログ、そしてTwitterと個人と個人を結びつけるインターネット上の場は、爆発的に広がっている。

佐藤さんは、WEBプロデューサーの仕事を(株)かっぺのホームページで、次のように解説している。

人・想い・世界をこのITで

ひとつながりのインフラを創造する「かっぺ」

私たちは、ユーザー視点の「発想」とそれを実現する「技術」、

そして、「命・想いを吹き込む人間」の3つの力を芯にもち、

IT（情報技術）を通じて、「つながり」を創造し、

よりよい未来、世界、地域づくりに貢献することを目指しています。

“プロデューサーとは”でキーワード検索すると、

「広告用語。映画・演劇・放送などで、制作責任者。作品の企画から完成までの一切を統轄する」という用語解説がヒットした。WEBプロデューサーである佐藤さんは、ITの技術を駆使して、人とその想いを結びつけ、よりよい世界の想像を目指している。その作品が、(株)かっぺのホームページの実績紹介ページに記載されている。

◆WEBプロデューサーに求められる能力

企画力

コミュニケーション能力

分析力／調査力

人脈形成力

Web制作知識